

## 第 24 回 日本言語文化学会報告

6 月 29 日（土）午後 1 時 40 分から行われた第 24 回日本言語文化学会では 3 名の発表が行われました。

第 1 番目の発表である杉原由美さんの「地域の「外国人と日本人の対話の場」における相互行為」は、「外国人と日本人の対話の場」を対象とし、参加者が多様なアイデンティティをもった個々人として関わる相互行為を実現する方策を探るものでした。

第 2 番目の伊佐地千恵子さんの「ピア・レスポンス活動が作文推敲に及ぼす影響」は、上級日本語学習者の作文の内容面に焦点を当てた記述式のピア・レスポンス活動を行った結果、ピア・レスポンスの内容によって、推敲が活発になったり、推敲されなかったりすることを明らかにしたものでした。

第 3 番目の曹英南さんの「韓国人日本語学習者の言いさし表現の習得状況」は、初級・中級・上級の日本語学習者の OPI データを資料として、言いさし表現の習得過程を明らかにしたものでした。全体の発話数に対して言いさし表現が占める比率と談話機能分析を行っていることから、質疑応答では談話機能を問うコメントが寄せられました。

特別講演会では、東京電機大学の黒沢学先生の「名詞連結からみる第 2 言語語彙の表象と学習」という講演がありました。日本人学習者における英語語彙学習のさまざまな実験を紹介していただき、「語彙を学習するとはどういうことか」について知見を広げることができました。

講評では、岡崎先生が発表者の研究の意義を再度まとめてくださり、講評の意義について言及されました。懇親会では、在学生だけでなく、卒業生もたくさん参加してくださり、社会人としての頑張りを聞かせてもらって、大いに盛り上がりました。たくさんの方々の協力を得て、今後も有意義で楽しい研究会を目指していきたいと思いますので、次回もたくさんのご応募よろしくお願い致します。

（林美善）